
何だ神田谷の三人組

オロチ丸W0632A

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

何だ神田谷の三人組

【Nコード】

N0889A

【作者名】

オロチ丸W0632A

【あらすじ】

とある所の三人組の話です。いつも大騒がせするのがちょっと大変です。

第一部：紹介（前書き）

何だ神谷田の三人組の主人公達です。

第一部：紹介

神：神寺拓海（男）

田：田中信治（男）

谷：谷屋光（女）

何だ神田谷の三人組はこの三人組の話です。
。

では何だ神田谷の三人組しりーずヨロシク。

第二部：青い鳥伝説（前書き）

青い鳥とは…何なのだろう…

第二部：青い鳥伝説

今日も三人組は何をしかすやら…ちょっと覗いてみましょうか。
どれどれ…（．．）モワン…

「おい、田中、谷屋、おれ、面白いもん見付けたんだ！」

「何を見付けたんだ？」

「じらさないで、教えてよ〜」

「ジャーン！ この地図何だけど、昔の地図みたいなんだぜ。」

「確に古そう…」

「ん、何か書いて有るぞ。ウーン…あ、これ右から左に書かれてる
みたいだ。フムフム」

「なっ面白いもんだろ！青い鳥を見た！なんてさ。」

「青い鳥って何かしら。青い鳥って見たことないわよ。」

「毎年いつも裏山の建物にいるって書かれてる。」

「ホントだ〜裏に書かれてる。」

「よし。余り遠くないから。放課後行ってみようぜ！」

「賛成」

「賛成です」

「決まり！」

《キーンコ・ンカ・ンコーン…》

「あつ授業始まる」

モワンヤレヤレまた大変な事にならなければいいんですが…放課後になるのを待ちましょう。

…そろそろですかね。

ドレドレ（…）モワン…《キーンコ・ンカ・ンコーン…》

「やっと終わった」

「早速いこうぜ。地図の裏山に。」

…裏山

「この辺りに建物があるはずなんだけど…」

「神寺、谷屋、あれ違うかな。」

「とりあえず行ってみようぜ！」

…大きな館の前

「でっかー。きっと昔金持ちがいたんだろうな。ドアは…開いちゃったぜ!？」

「よしし入るぜ！」

…館の中

「少し暗いし気味悪いな。」

「キヤー」

突然悲鳴の後に谷屋が消えた…。

「谷屋ー！、谷屋ー！」

「たっ助けてー！キャー」

声が聞こえたその先には…恐る恐るゆっくりその方向をむくと…何もない。

足で探りながらゆっくり進むと、イキナリ床が抜けた。ヒューン。

ドサドサ

「いつ痛〜い。早くどいて。」

なんとそこは、地下牢だった。

元々刑務所だったらしい。鍵が掛ってる。しかもコウモリが飛び回ってる。

「どうする？（ノ・・）」

「どうするったって、どうすんだよ！？」

「マアマア喧嘩したってどうにもならないよ。それより、今床が腐ってたから落っこちたんだろうから、他にももういっこ無いか探してみようよ。」

「成程。もういっこから地下牢脱出するわけか。」

…しばらく経って

「ねえ、有ったよ〜。この鉄柱錆びてる。しかも、3本で通れそう。」

「確に。」

「せーの。」

バキッ

「なんとか出れた。それにしても暗らいな。」

「壁沿いに行くしかないな。」

…そんなこんなで上がり階段があつた。

「そろりそろりと一人ずつ上がるうぜ。」

そしてなんとか上がった三人組は。

何か台が有つて、その近くに人影を見つけた。恐る恐る話しかけた。

「も、もしもし…」

「誰だ！まだホラーハウスは計画中なのに！んっ子供？…」

灯りを男はつけた。そこに居たのは…

「岸田先生！！！」

「コラア勝手に入って。まあいい。先生は仕事で来たんだが、君達
は？」

「何か青い鳥がいるって聞いたから。」

「青い鳥！？ああそれは昔は毎年この館でそんな玩具を売ってたな。
その事だろう。さて、そろそろ家に帰りなさい。」

担任の先生に見送られて帰る途中に、こんなことを話していた。

「結局、青い鳥はみんなの心の中にいるのかもしれないね。」

「そくに違いはないね。」

「オレもそう思う。」

友情を一層固くした三人組。

彼等は青い鳥は絆であることを知っているに違いないでしょう。

第三部：ある少女（前書き）

ある少女の恋の話です。

第三部：ある少女

こないだの話からしばらく経って…また三人組の世界へ
モワン

もうすぐ中学校。

「みんなに担任から最後の授業を始める。」

そう言い授業が始まった。…翌日の卒業式

「皆さんはこの6年間。よく頑張ってくれた！校長先生は誇りに
思います。……以上校長先生からでした。」

春休みが過ぎて…中学校入学式

「皆さん。今日から新生活が始まりました。……以上教頭からの話
でした。」

翌日中学初めての授業

「確認テスト」

「えゝなんで…」

小学校の内容の確認テストは三人共に99点だった。
しかし100点が一人。三園光。彼女だ。

「…」

みんなが誉める。しかし彼女は黙ったまま。三人組は話しかけた。
「もしもし。こんに…」

「話しかけないで！…話しかけないで。」

「何か有ったの？」

谷屋が聞く。彼女は頷き、

「谷屋さん。ちよつと来て。」

そして谷屋はついて行く。

「私…小学校で好きな人がいたの。でも今、ある程度学校選べるでしょう。それで、好きな人は違う学校に行っちゃったの。ヒックヒック…私も同じ中学選んだの。一緒の学校だったら、私のこと、好きになってくれるかもっていう期待が有ったの。でも、私は抽選に受かったけど好きな人は駄目で学区の学校に行っちゃったの。ヒックヒック応募しなけりゃと思つて後悔してて…ヒックヒック」

「泣かないでよ。学区の学校は何処？好きな人に手紙書いて、渡せばいいんじゃない？」

「手紙書いても見てくれないよ…」

バチーン谷屋が三園光の二の腕を叩いた。

「なっ何すんのよ！（。o。）」

「やる前から諦めてどうするの！？それじゃあ、気持ち伝えられないじゃない。伝えられれば、その人の気持ちが分かるでしょう。伝えないと、相手はな〜んにも分からないよ。伝えたら、メル友位にはなれると思うけど？その辺は？」

「私も好きな人も携帯持つてる…（・―・）でも、アドレス知ってるけど、送った事ないし…」

「違う！…手書きの葉書と同じ内容でも、同じラブレターでも、手書きの方が気持ち伝えられるよ」

「うん！ゝ。ゝ」

…そして翌週

「三園ちゃん。アレ書いた？」

「うん。今朝内容見たけど誤字脱字脱字も誤字もマズイから。谷屋さん、ちよつと来てね。」

またついて行く谷屋。

「何？」

「内容間違つてないか、おかしくないか、心配で…」

「著しく悪かったらいうけど…」

【岸田幸治君へ。

岸田君は気付かなかったかもしれないけど、私は岸田君が好きでした。

（ハ・ハ）vそして今も好きです。

メルアド変わってないから、メールください。

三園光より私のアドレス：

@

】とい

う内容だった。

「岸田君の家知ってるから、手渡しして来るけど…」

「大丈夫！気持ちは必ず伝わるよ！頑張れ v（ハvハ） 恋する

少女！」

「うん！頑張る！じゃあ行つてきます〜！」

…岸田幸治の自宅ピンポンガチャ岸田幸治君が出てきた。

「はい岸田ですけど…おや、6年1組にいた、三園じゃん。何か用でも？」

「これ、読んでね。」

そう言つて手紙を手渡しして帰ろうとしたとき、

「待て。三園。読んでくれよ。その方が良いから」

「うん」

真っ赤になつてしまった顔で

「じゃあ読むね」岸田幸治君へ。岸田君は気付かなかったかもしれないけど、私は岸田君が好きでした。（ハ・ハ）vそして今も好き

です。メルアド変わってないから、メールください。三園光より私のアドレス： @ 〴〵

「マジ!？」

「うん。」

「俺は…」

岸田君の答は？

「俺にとって…三園は…友達以上恋人未満だ。つまり、俺にとって三園は家族の位置なんだ。嫌いじゃない。でも好きまでいかない。」

「メールしてね。」

心の中で泣きながら走って帰った。

谷屋に相談する。

谷屋は希望はあるって励ましてくれた。

…一ヶ月後引越しに為転校して来た男子がいる。

その男子を見た時三園は嬉しかった。

その男子は…岸田幸治君だったから。…休憩時間

「岸田君。」

「引越して言っても、親がマイホーム建てていて、あん時は留守番だったんだ。で、引越した先が、この学校の学区だったんだ。すごい偶然。」

「なんでメールしてくれなかったの。(――?)」

「メールじゃなくて、直接言いたかったから。あんな事言っただけ、実は三園好きなんだって。(、^*)」

「ホント？」

「ホント。びっくりして素直に言えなくて…（＾ｖ＾）」
授業中嬉しかった。ホントに嬉しかった。…放課後

「三園一緒に帰ろうぜ。」

「うん。」

手を繋いで帰る二人を見て谷屋はこう呟いた。

「三園ちゃん良かったネ。」

私の場合どっちが好き何だろう。

「神寺と田中と」恋が叶った二人を見て、一寸先は闇だけじゃなくて、一寸先は明も有る。

そう実感した谷屋だった。

《オーイ。俺達の出番ないじゃん。》と叫ぶ神寺と田中がいた（笑）

第四部：三人組の高校生活（前書き）

今年は三人組が高校に入学する年です。でも…谷屋は違う高校に。
これから三人組はどうなるのでしょうか…？

第四部：三人組の高校生活

今日もまた三人組の世界へいきましよう
ポワン

「みんな。受験シーズンだぞ。受験するか、就職するか、決めなさい。」

三人組は共学のA高校とB高校を受けた。
そして…

神寺拓海はA高校

田中信治はA高校

谷屋光はB高校

だけ合格した。

「田中と谷屋はどうだった？」

f (^ | ^)

俺はA高校だけ合格したぜ」

「僕もA高校だけ合格したよ。」

(# ^ ^)

「私は… B高校だけ合格したの…」

(- | -)

「マジ…かよ。」

(/ | \)

「三人組分裂…

(〇〇〇)」

「違う高校になったけど、ずっと友達でいようね。」

「うん」

「もちろん!」

ポワン

…こうして違う高校に進学した三人組。

三人組の高校生活は…どうなるのか…

卒業式前日からみてみましょう。

ポワン

…卒業式前日

休憩時間

「谷屋、放課後に体育館の裏に来て。」

「田中君…わかった。」

…放課後

「谷屋、やっぱり僕は谷屋を友達と思えない。…突然だけど、好きです!」

(< >) 「」

「……ゴメン、直ぐには返事できない……」

「高校に入ったら必ず答えて欲しい。」

「…とりあえずサヨナラ」

…卒業式当日

「谷屋、卒業式が済んだら、ちょっとついてきて。言いたい事がある。」

「神寺君…わかった。」

卒業式が済み、神寺の後を谷屋がついていく。

たどり着いたのは、お寺の近く。神寺君の叔父が住職をしている。

「谷屋。俺、谷屋が好きで好きでしょうがない。突然こんな事言つてゴメン。返事は入学式の日までに言つて欲しい。YESかNOか。」

「…とりあえずサヨナラ…」

家に戻って谷屋は悩んだ。

悩んで、悩んで。

【私、どっちが好きなんだろう。

どっちも友達なのかな…わかんない…わかんないよ…】

谷屋は今まで自分のしてきた言動を可能な限り思い出す。

遠足・野外活動・修学旅行・部活・発表会…思い出す事ができた気持ち。複雑な気持ち。それは…

神寺拓海君は好き

ではなく友達…

田中信治君は好き

だ。

思い出した。

神寺君がリーダーだった。

でも、自分は…リーダーの神寺君よりも田中君の方が気になっていた。それは…今も同じだ。

…始業式

春休みの前の気持ちは…今では少し大きくなってる。

三年前の岸田幸治君と三園光さんがうまくいったように、私もうまくいけばいいなと思う谷屋だった。

家に帰ると、神寺君にNOと告げた。

神寺君には悪いけど事実だ。

それから田中を家に呼んだ。

「ピンポン」

部屋に田中を呼んだ。

「私は…神寺を友達…田中を友達以上…好き。」

「ホント？」

「ホント！」

「…ヤッター！」

「僕、断られたらどうしようって思ってた。夢じゃないかしら…いてて…痛いから夢じゃない。ヤッター」

そうして、新たなカップルが誕生した。

…その頃

神寺君は…

【振られたな。見事に。ハア】

そうして始まった高校生活。

神寺拓海は次の恋をして実り、

田中信治と谷屋光の恋も実りました。

神寺拓海は今は谷屋を友達と思えるようになったけど、初恋は忘れない。

谷屋も、神寺が自分を好きだった事を忘れない。

三人組は四人組？になりました。

でも三人組。

第四部：三人組の高校生活（後書き）

第五部まで続きますので、よろしく

第五部：社会に出た三人組の行方は…（前書き）

三人組の行方は…

第五部：社会に出た三人組の行方は…

三人組の世界へいくのは今日で最後モワン同じ大学を卒業した三人組。ある日の事

「神寺、海田とはうまくいってる？」

海田とは海田志保里の事で、神寺の彼女だ。

谷屋に振られた神寺は新たな恋をした、その相手。

「ああ、うまくいってるぜ！田中こそ、うまくいってるのか？」

「うん、谷屋とはうまくいってるよ！」

「そう言えば、岸田は三園とうまくいってるのかな…ほら、>@<大学にいった奴ら。確かあいつらも今年卒業したはず…」

【岸田と三園についてのエピソードは第三部：ある少女をミテネ。】

「う〜ん。

僕は知らない。

谷屋は知ってるけど聞いてない。」

「信治く〜ん。

おはよう（^・^）」「

「光ちゃんおはよう。」

そこに岸田幸治 & a m p ・三園光カップルがやってきた。

「その様子だと安泰だったんだ。」

「うん」

ある日の事

「志保里ちゃん、結婚しよう」

「うん、拓海くん」

またある日の事

「（谷屋）光ちゃん結婚しよう」

「うん信治くん

チュッ

（＾・＾）」

またまたある日の事

「（三園）光ちゃん結婚しよう

〇（＾・＾）〇」

「うん 大好き

ギュッ」

∴ 大学卒業から早１２年
新たな三人組がいた。

神寺拓海と神寺（海田）志保里の間に神寺孝が生まれ、田中信治と田中（谷屋）光の間に田中健太が生まれ、岸田幸治と岸田（三園）光の間に岸田直人が生まれた。神寺孝と田中健太と岸田直人の三人組が誕生した。親たちみたいにヤンチャな三人組。今日も三人組は幸せなヤンチャな日々を送ってます。

何だ神谷田の三人組シリーズ

ゝ完ゝ

第五部：社会に出た三人組の行方は…（後書き）

最後まで読んでくれてありがとう V（^ - ^）V感想と評価ください！ m（――）mオロチ丸

05/03/15より、約三年半ぶりに修正しました。一部の名前だけだ。 08/09/28 14:53

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0889a/>

何だ神田谷の三人組

2010年10月8日13時40分発行